創刊15周年記念
連載

東京・日本橋〜京都・三条大橋

東海道五十三次を往く

第5回

ミスモ15周年を記念してスタートした東海道五十三次を巡るプロジェクトも、はや第5回。今回は、見所の多い大磯宿を巡りました。

大磯宿

文人や政客に愛された歴史ある景勝地

万葉の時代より歌枕として読み継がれてきた「こゆるぎの磯」は、大磯付近の海岸を指す。古くから文人墨客に愛されたこの地は、江戸から数えて8番目の宿場町として栄え、旅籠屋も街道の両脇に立ち並んでいたという。大磯宿周辺の旧街道には松並木が長く続き、東海道の雰囲気を楽しめるのが特徴。由緒ある寺社や庵、著名人の旧宅なども数多く残るこの宿場は、景観を楽しみながらゆっくりと巡りたい。

今回の旅はここからスタート

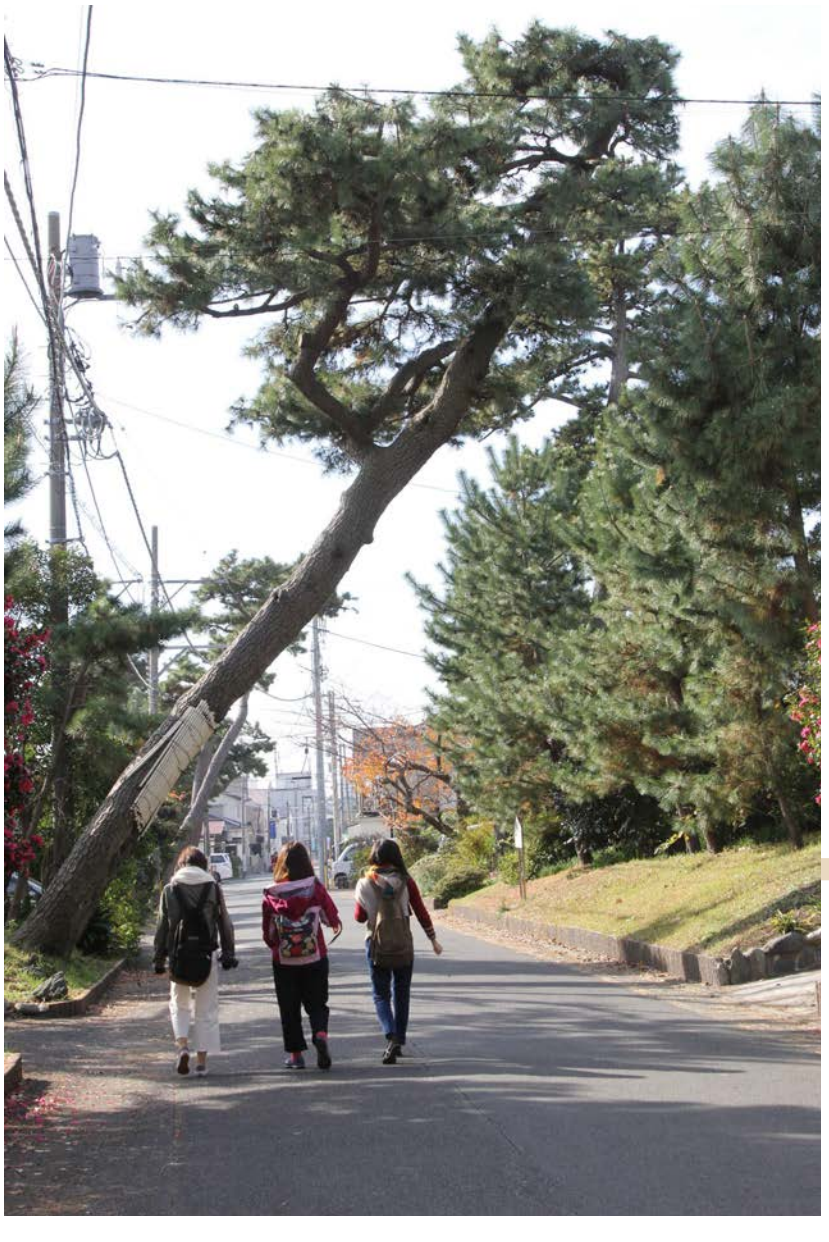
化粧坂
日本三大仇討ちとして有名な「曽我物語」。仇討ちを果たした曽我兄弟の兄、十郎祐成の愛人であった遊女、虎御前が住んでいたとの伝説が残るのが、この化粧坂付近だ。

化粧井戸
虎御前は、この井戸から汲んだ水で毎日化粧をしていたと言われている。

竹縄架道橋
化粧坂を過ぎると、旧街道はJR東海道本線と交差する。以前は踏切があったが、東海道本線の複々線化に伴い、旧街道は線路の下をくぐる地下通路となった。

小島本陣跡・尾上本陣跡
大磯宿には小島、尾上、石井の3つの本陣が隣接していたという。その内の2つ、小島本陣と尾上本陣の跡地には、石碑と案内板が立っている。

イラストや間取り図で当時の様子がわかる！



大磯の松並木
化粧坂の信号を目印に国道1号から旧街道に入ると、松並木が広がる。大きく傾いだ巨木には今なお枝葉が茂り、江戸の風景を思い起こさせてくれる。

こゆるぎの浜
歌枕「こゆるぎの磯」として知られる大磯付近の海岸線。「こゆるぎの浜」という道標を目印に進むと、広い砂浜に到着する。

滄浪閣跡周辺

初代内閣総理大臣、伊藤博文の旧居滄浪閣の周辺にもまた、車道を挟むように松並木が続く。歩道も整備されており、ゆっくりと景色を楽しむことができる。

大磯の街並み

大磯宿では、国道1号沿いを歩くことが多いが、時折街道沿いに歴史ある建物を見つけることができる。明治24(1891)年創業の和菓子店、「新杵」もそのひとつ。

「旧東海道の名残り」の道標

押切坂の一里塚のすぐそばの国道1号と旧街道の分岐点には、「旧東海道の名残り」の道標が立つ。左右に新旧の街道を見渡せるスポットだ。

おみやげ

吉田茂元首相や島崎藤村からも愛されたという新杵。名物の西行まんじゅう(1個130円)は、大磯の情景を詠った西行法師の名にちなんで命名された。

新杵 ☎0463-61-0461
神奈川県中郡大磯町大磯1107
㊗8時30分～16時　㊡火・水曜

松屋本陣跡

大磯宿から次の小田原宿までは約4里(16km)と離れていたため、その中間地点には「間の宿(あいのしゅく)」として休憩所が設けられ、「梅沢の立場」と呼ばれていた。松屋本陣はその中心的存在だ。

湘南発祥の地！

鴫立庵(しぎたつあん)

小田原の崇雪という人物が、西行法師の歌「こころなき 身にもあはれは知られけり 鴫立沢の秋の夕暮」に感銘を受けて、寛文4(1664)年に結んだ庵。鴫立庵の石碑の裏に「崇雪 著盡湘南 清絶地」と刻まれていたことから、「湘南」発祥の地としても近年注目されている。

押切坂

旧街道から国道1号に合流する下りの急坂。ここを下ると、次の小田原宿まで10km余りとなる。

海水浴発祥の地・新島襄終焉の地

明治18(1885)年、江戸城奥医師を経て軍医総監を務めた松本順が、この地に日本で初めての海水浴場を設置した。近くには、同志社の創設者である新島襄が、46歳で生涯を終えた地の記念碑も。

続く！

食

地元客でにぎわう鳥料理専門店。人気の鳥定食は、焼鳥、唐揚げ、鶏わさ、すまし汁、ご飯、お新香が付いて1,250円。

鳥料理 杉本 ☎0463-61-0444
神奈川県中郡大磯町大磯1186-2
㊗11時45分～14時/17時～19時45分
㊡月曜・第3火曜